

施策項目 1 4 体力・運動能力の向上

[評価結果]

[担当課：健康・体育課（社会教育課）]



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	0	5	2	1
	d評価となった指標	②			

定性評価 [施策]	進展あり
-----------	------

児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて、「学校における体力向上の取組の推進」や、「学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の運動機会の充実」が課題となっていることから、体育・保健体育授業の改善・充実や、スポーツ関係団体等と連携した体育・保健体育授業以外の運動機会の創出、体力や運動の重要性について普及啓発する機会を設定した。その結果、体育・保健体育の授業改善に向けた具体的な取組の方向性や、各学校における体力向上に向けた組織的な取組の方向性が明確になるなど、施策の進展が認められた。

[施策の推進状況]

[P]・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 [D]・・・「Do 主な取組の状況」
 [C]・・・「Check 施策の課題」 [A]・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	(1)学校における体力向上の取組の推進 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小・中学校男女ともに全国平均を下回っている。
	(2)学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の運動機会の充実 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、小・中学校男女ともに1週間の授業以外での総運動時間が60分未満である児童生徒が多い。

(1)学校における体力向上の取組の推進	
[P]	[D]
<p>①各管内や学校における検証改善サイクルを生かした体力・運動能力の向上及び体育・保健体育授業の改善・充実に向けた取組の推進</p> <p>②各管内や配置校等における体育・保健体育授業の改善・充実、体力・運動能力の向上に向けた授業以外の取組の充実を図るための小学校体育専科教員等の配置</p> <p>③小学校体育専科教員等の取組成果や好事例を広く普及啓発するための各管内における研修会等の実施や実践事例集等の作成</p>	<p>①各学校における計画的・組織的な取組を推進するための「令和4年度版新体力テスト分析ツール」や「体力向上プラン」の作成・配付（6月15日）</p> <p>・各教育局における体力向上ロードマップの作成及び各学校の組織的な取組の充実を図るための学校訪問での指導助言</p> <p>・小学校における体力向上に向けた組織的な取組の充実及び中学校における保健体育授業の改善・充実などを図る「体力向上支援事業」の実施</p> <p>・小学校体育専科教員、小学校体育エキスパート教員及び中学校授業実践スペシャリストが一堂に会し、学識経験者を招いた「北海道体力向上推進会議」の実施（年2回（7月13日、12月14日））</p> <p>②・小学校体育専科教員は23校に23名、小学校体育エキスパート教員は9校に9名、中学校授業実践スペシャリストは4校に4名及び中学校体力向上推進教員は11校に11名配置</p> <p>③・小学校体育専科教員等を講師とした各管内ごとの研修会の実施（実施回数：12回（8～12月、対象：小・中学校の教員、参加人数：計201名）</p> <p>・中学校授業実践セミナーの実施（実施回数：4回（10月21日、27日、11月8日、25日）、対象：実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組んでいる中学校保健体育科教員、参加人数：計59名）</p> <p>・小学校体育専科教員等の好事例をまとめた実践事例集の発行（令和5年3月）</p>
[A]	[C]
<p>①全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえた「令和5年度新体力テスト分析ツール」の作成・配付</p> <p>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果及び各教育局の体力向上ロードマップに基づいた体力向上の取組に対する指導助言</p> <p>②各配置校や管内の体育・保健体育授業及び体力向上の取組の一層の改善・充実に向けた体育専科教員等の継続的な配置</p> <p>③小学校体育専科教員等の取組成果や好事例を広く普及啓発するための各管内における研修会等の充実及び継続的な実施</p> <p>・小学校体育専科教員等の好事例を普及啓発するための実践動画及び実践事例集の更新・普及啓発</p>	<p>①全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果などの客観的なデータを活用し、効果的に検証改善を実施している学校ほど、体力向上の成果を上げていることから、指導主事の学校訪問等により、実践事例集等の普及啓発を図るなどの継続した取組が必要</p> <p>②全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査において、体育専科教員等の配置校では、体力向上に関連する項目で、肯定的な回答をしている児童生徒の割合が全国平均よりも高いことから、今後も体力向上に向けた取組の中心的存在として、体育専科教員等の継続的な配置が必要</p> <p>③全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の質問紙調査において、授業改善の取組が児童生徒の「できた」「わかった」に十分つながっていないことから、小学校体育専科教員等の取組成果や好事例をより一層普及啓発することが必要</p>

(2)学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の運動機会の充実	
[P]	[D]
<p>①全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本道児童生徒の体力・運動能力等の現状や課題を踏まえた学校、家庭、地域及び関係機関が連携した運動機会の創出</p> <p>②学校、家庭、地域及び行政が一体となって、児童生徒が主体的に体力づくりに取り組む機運を高め、運動機会の充実を図るための強調月間の設定</p> <p>③保護者を対象にした望ましい運動習慣について普及啓発する機会の設定</p>	<p>①関係機関と連携し、子どもの実態や興味・関心に応じて多様な種目に取り組むことができる「どさん子元気アップチャレンジ」の実施</p> <p>・道内のスポーツ団体と連携したリズム運動動画（応募数：55校78作品）</p> <p>・「オリジナル部門」の追加実施（応募数：17校18作品）</p> <p>②各市町村で実施されるスポーツイベント等をHPで紹介する「どさん子体力アップ強調月間」を実施（実施事業数：151）</p> <p>③生活習慣や学習習慣の定着に向けた研修会等において、運動習慣の定着や運動に親しむことの重要性を周知する資料による普及啓発（6～2月、保護者・地域住民・教職員など、参加者数1,999名）（民間企業（大塚製薬）と連携した取組：5回）</p>
[A]	[C]
<p>①全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における本道児童生徒の体力・運動能力の現状や課題に応じた「どさん子元気アップチャレンジ」の実施種目の設定及びプロスポーツチーム等と連携したリズム運動動画のより一層の活用促進</p> <p>②「どさん子体力アップ強調月間」の継続的な実施</p> <p>③全道各地のPTA団体と協力して、保護者を対象とした取組を継続するとともに、地域において家庭教育に携わる人材を対象とした「地域における家庭教育支援基盤構築事業」等を活用して、家庭教育支援に携わる人材から体力向上や運動習慣定着に向けた働き掛けを強化</p>	<p>①実施種目の充実により「どさん子元気アップチャレンジ」の参加者の延べ人数がR3年度の個人20,578名、団体337チームからR4年度は個人25,108名、団体433チームに増加したが、家庭・地域部門の中学生の参加者数の低下などの課題もあることから、実施種目の更なる検討が必要</p> <p>②望ましい運動習慣の定着に向けた学校・家庭・地域が一体となった取組が重要であることから、実施事業数の少ない管内に一層の充実を働きかけるなど、今後も継続した取組が必要</p> <p>③参加者はPTA役員や学校関係者が多く、子育てに悩む保護者や乳幼児期の子どもをもつ保護者は限られていることから、家庭教育支援に携わる方からの協力を得た普及啓発の機会を増やすことが必要</p>

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象	
		実績値（下段）												
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)							
① 体力合計点の全国平均値を50.0とした場合の北海道の小学校5年生、中学校2年生の値 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小男子	(H29)		50.0	50.0	-	50.0	50.0以上	98.8%	b	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	ｽﾎｰｯｼﾞ	R4.4～ R4.7	公立小・中学校の児童生徒（小5・中2）
		49.3	49.3	49.1	49.1	-	49.2	49.4						
	小女子	(H29)		50.0	50.0	-	50.0	50.0以上	98.4%	b				
		48.6	48.6	48.7	48.7	-	48.8	49.2						
	中男子	(H29)		50.0	50.0	-	50.0	50.0以上	96.2%	b				
		48.6	48.6	48.6	48.6	-	48.2	48.1						
	中女子	(H29)		50.0	50.0	-	50.0	50.0以上	93.2%	b				
		46.6	46.6	46.5	46.7	-	46.7	46.6						
② 体育の授業以外で1週間に運動・スポーツの総運動時間が60分以上と回答した小学校5年生、中学校2年生の割合(%) 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小男子	(H29)		94.5	96.5	-	96.5	100	91.5%	b	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	ｽﾎｰｯｼﾞ	R4.4～ R4.7	公立小・中学校の児童生徒（小5・中2）
		93.3	93.3	92.9	91.9	-	91.0	91.5						
	小女子	(H29)		91.0	94.0	-	94.0	100	87.1%	c				
		88.5	88.5	87.8	87.5	-	86.4	87.1						
	中男子	(H29)		92.0	95.0	-	95.0	100	89.1%	c				
		90.9	90.9	90.5	89.8	-	89.0	89.1						
	中女子	(H29)		80.0	85.0	-	85.0	100	78.3%	d				
		77.0	77.0	77.1	77.1	-	78.6	78.3						
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価			C						
	0	5	2	1										
新型コロナウイルスの影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組	①② コロナ禍において、体力合計点の低下が見られるとともに、1週間の体育の授業以外の総運動時間が60分未満の児童生徒が増加したことから、運動やスポーツに対する愛好的態度を育むため、学校において、体育・保健体育の授業の改善・充実や、授業以外に運動に親しむ機会の創出に向けた取組の充実を図られるよう、教育大学と連携し、「体力向上推進事業」の推進や、小学校体育専科教員への指導助言に取り組む。													
d評価に対する今後の取組	② 自己肯定感や挑戦心等を高めるなど体育・保健体育授業の改善・充実を通して、運動習慣の定着に向け、主体的に運動に取り組む態度等を育成する。													